

会 議 録

1 会議名

令和3年度第2回上越市人にやさしいまちづくり推進会議

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 第5次人にやさしいまちづくり推進計画（案）について（公開）

3 その他

(1) 公共建築物ユニバーサルデザイン指針（改正案）について（非公開）

4 開催日時

令和3年11月16日（火）午前10時00分から11時45分まで

5 開催場所

上越市役所木田第1庁舎4階 401会議室

6 傍聴人の数

0人

7 出席した者 氏名（敬称略）

・ 委 員：青木 美由紀、岩崎 洋一、折笠 正勝、熊木 輝美、桑原 正史、
齊藤 義憲、佐藤 秀子、田村 治、藤井 和子、松本 明、
望月 博、山岸 実、吉澤 正好

・ 事 務 局：野上自治・市民環境部長

共生まちづくり課 太田課長、古川副課長、渡邊共生係長

8 発言の内容

(1) 第5次人にやさしいまちづくり推進計画（案）について（公開）

会 長：「第5次人にやさしいまちづくり推進計画（案）について」事務局は説明をお願いします。

<配布資料No.1に基づき事務局説明>

○第1章 計画策定の趣旨と背景

松本委員：2ページ目の中ほどに「住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを…」とありますが、新たに上越市で暮らし始めた人は、住み慣れてはいないので、違う言葉に置き換えた方が良いと思います。

○第2章 推進計画の概要

松本委員：11 ページ注釈の「高齢者、障害者、子供、妊産婦その他の者で、日常生活及び社会生活を営む上で何らかの配慮を必要とする人」とありますが、見た目で配慮が必要と判断できない方もいます。このことも含めて記載すれば、意識づけもできるのではないかと思います。

共生まちづくり課 太田課長：適切な表現があればご提案ください。人にやさしいまちづくり推進計画は、各福祉や高齢者等、様々な計画の総括的な面を持っています。この計画を手にとった市民が文面を見て理解できることが大事だと思うので、ご指摘いただいた視点は取り入れたいと思います。

岩崎委員：第4次計画と第5次計画で具体的に違う部分について説明してください。

共生まちづくり課 太田課長：前回会議で、周知の部分に力を入れながら第4次計画を継承することを決定しました。時点修正等を行ないませんが、全体として大きく変更はありません。

岩崎委員：11 ページに基本方針と施策が記載されていますが、現状の何に基づいた方針なのか見て分かるようになると良いと思います。

共生まちづくり課 太田課長：計画の目的は10 ページから11 ページに、個々の方針については第3章に詳細を記載しております。加筆するかは検討したいと思います。

松本委員：基本方針の中で、例えば4において、施設の充実や障害者、介護支援はうたわれていますが、症状が出る前の予防については記載されていません。健康に対する意識づけのため、「情報の提供」をすることを入れてはどうでしょうか。

共生まちづくり課 太田課長：関連部署と検討します。

○第3章 現状と課題・施策の方向性 1. 誰もが理解しあえるまちづくり

松本委員：16 ページの基本目標に「誰もが互いを尊重し理解し合えるまちの実現を目指します」とありますが、「互いを尊重し」の後に「(自身の考えを押し付けず)」と加筆してはどうでしょうか。

松本委員：19 ページ、3 施策の方向の(1)-①に「誰もが相手の特徴を認め合い」とありますが、「特徴」というと、非常に良い部分として捉えがちであるため、障害を持つ人や健康上に不安を抱える方のことを考慮し、「特徴(特質)」または「特徴・特質」と表現するのはどうでしょうか。

共生まちづくり課 太田課長：そのようにしたいと思います。

○第3章 現状と課題・施策の方向性 2. 誰もが学べるまちづくり

<意見なし>

○第3章 現状と課題・施策の方向性 3. 誰もが働けるまちづくり

<意見なし>

○第3章 現状と課題・施策の方向性 4. 誰もが健康に暮らせるまちづくり

松本委員：前文について、他の項目では何が大切か、どう進めていくかが書いてありますが、この項目のみ、過去形でどういう取組をしてきたかが記載されています。統一した方が良いと思います。

共生まちづくり課 太田課長：現在実施している事業であるため、進行形に修正します。

岩崎委員：1の「現状」は、市民意識調査結果を記載したのですが、行政側からみた実績との差異が分かったら教えてください。また、「わからない・どちらともいえない」といった回答に対して、問題の掘り起こしは行っていますか。

共生まちづくり課 古川副課長：「現状」は市民意識調査結果から引用しているので、市民サイドの判断です。行政側の評価は前回会議で審議いただいた92事業の実施計画に対してほぼ100%予定通り進捗していると判断しています。それについては、こちらに記載していません。

「わからない・どちらともいえない」の内容に関しては、これほど回答割合の多くを占めると想定していなかったため、詳しい分析はできていません。この中身をどう捉えるかが今後の課題だと思っています。

岩崎委員：次回の調査では、地域性に基づいた客観的なデータが取れるようにしてもらいたいと思います。また、市民と行政の実績、満足度、反省点が分かるような資料になったら良いと思います。

○第3章 現状と課題・施策の方向性 5. 誰もが互いに支え合うまちづくり

<意見なし>

○第3章 現状と課題・施策の方向性 6. 誰もが安心して暮らせるまちづくり

<意見なし>

○第3章 現状と課題・施策の方向性 7. 誰もが快適に暮らせるまちづくり

松本委員：38ページの前段に「実感する『物理的障壁』」とありますが、多くの人は

「段差」が全て良くないと誤解しています。段差はリハビリのためにある程度あった方がよいもので、全くないと筋力が低下してしまいます。「危険な段差」という表現が正しいです。何センチが危険か、危険でないかが分かれば細かい対応が可能ですので、検証データをとって全体に加えた方がよいと思います。

共生まちづくり課 太田課長：この後協議を予定している公共建築物ユニバーサルデザイン指針（改定案）の協議に含め、検討したいと思います。

○第3章 現状と課題・施策の方向性 8. 誰もが移動しやすいまちづくり

松本委員：市の補助でバスの運行システム（ロケーションシステム）を取り入れているので、前文に記載してはどうでしょうか。

共生まちづくり課 太田課長：「8. 誰もが移動しやすいまちづくり」は、条例制定時に車両や設備のバリアフリー化が趣旨で「公共車両等の整備等」としていましたが、第3次計画までの間で交通弱者の「移動手段」にも範囲を広げ、その視点を取り入れた事業でもありますので、検討します。

岩崎委員：市としてスマートシティ構想はありますか。

共生まちづくり課 太田課長：ICT化について、行政内部での計画は持っています。個々の分野でICTに取り組む事業はありますが、上越市全体としての方向性はまだ定まっていません。

佐藤委員：「8. 誰もが移動しやすいまちづくり」では、高齢者や障害のある方の「交通手段」に重きがあると思います。3 施策の方向の道路整備と地域公共交通の向上の順番を入れ替えてはどうでしょうか。

共生まちづくり課 太田課長：他委員から別の意見がなければ入れ替えたいと思います。

<意見なし>

○第4章 計画の推進体制

松本委員：48 ページ下段に、「もしもの時の自分という意識で接することができれば」とありますが、「もしもの時の自分に『置き換えて』接することができれば」とした方が、分かりやすいと思います。

会長：それでは、事務局から再検討、修正していただく点等ありましたが、本会議の意見を十分生かしていただきながら、この計画案をベースに進めて

いただくということで、よろしいでしょうか。

<意見なし>

9 その他

- (1) 公共建築物ユニバーサルデザイン指針（改正案）について（非公開）

10 閉会

事務局：次回の会議は、12月13日(月)の午後2時からこちらの会場で開催予定です。時節柄お忙しいことと思いますが、御出席願います。

それでは以上をもちまして本日の会議を閉会させていただきます。

11 問合せ先

自治・市民環境部共生まちづくり課

TEL：025-526-5111（内線 2326） E-mail：kyousei@city.joetsu.lg.jp

12 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。